

総務常任委員会 議会報告会実施報告書

開催日時	平成 30年 1月 22日(月) 18時～19時30分	
開催場所	明石商工会議所 7階 大ホール	
テーマ	シティーセールスについて	
出席議員	委員長	林 健太
	司会者	久枝 陽一
	記録者	坂口 光男
	その他	(副委員長) 国出 拓志 (視察報告) 北川 貴則 中西 礼皇 (以上、総務常任委員) (応援) 梅田 宏希 千住 啓介 (以上、議会活性化推進委員)
参加人数	4団体 12名 明石商工会議所青年部 明石商店街連合会青年部 一般社団法人 明石青年会議所 町衆明石	
傍聴人数	7名	
報告内容	○行政視察報告 埼玉県戸田市(中西委員) 栃木県栃木市(北川委員)	
主な意見・提言・要望と応答	<p>○行政視察報告に対する質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸田市の視察報告について、人口対策として大学と連携していたとのことであるが、明石市の取り組み状況はどうか。また、転出者に対してアンケートを実施しているとのことであるが、その傾向はどのようなものか。 ⇒(中西委員)大きなテーマでの大学との連携はなく、学部やゼミの範囲にとどまっている。転出者は、就職、結婚、転勤に際し、ライフスタイルに合わせてより利便性の高い処に居住する傾向があり、地域への思い入れを優先させることは少ないと考える。 ・栃木市の視察報告について、民間会社リクルートとの提携に関し、明石で参考となった点は。 ⇒(北川委員)リクルートの出版物等の広報媒体の活用に加えて、商工一体となった催しや婚活等(出会いから結婚、出産、仕事、住まい)の取り組みが参考になった。 <p>○テーマ1：明石市制100周年に関して、その他</p> <p>〈明石商工会議所青年部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中核市となることで権限が移譲されることが取り沙汰されているが、商工業者にはあまりメリットがわかりにくい。若手事業者・起業家にとって、住みやすい、経営しやすい、雇用しやすい情報があれば発信して欲しい。 ・100周年に関し、商工業者関連の情報発信をして欲しい。 <p>〈明石商店街連合会青年部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・便利な商店が近くにあることは、住みたい理由の一つになると考える。10 	

0周年だけではなく明石の魅力を発信するには、商店街の魅力が重要であり、イベント等色々と実施しているが、中心市街地以外の商店街は苦戦している。改装や出店に際し、何らかの補助があれば商店街への勧誘や加入がしやすい。

(中西委員) 出店補助への応募者数が少ないことに課題があると考えますが、その対応策はあるか。

⇒情報を知らない人が多いため、不動産業者や工務店などへ市の補助内容についての情報提供を行い、出店希望者へ周知徹底を図るとよいのではないかと。

・100周年は、明石に住んでいる人たちが住んでいて良かったと思えるかが問われていると思う。市民が担い手となって、明石への愛着心、愛郷心を醸成する取り組みが100周年以降も必要である。福山市が市民アイデアを募集していたことは参考になると思う。

〈一般社団法人 明石青年会議所〉

・100周年は、選挙の年でもある。低い投票率では100周年への関心も高まらないと思う。青年会議所としても、若い方に政治教育や選挙啓発をしている。100周年が単なる祭りとならないよう、地域愛、心を醸成する取り組みが重要である。

・明石商店街連合会青年部から話のあった出店補助についての補足意見としては、短期間で少額なものが多く、活用しにくい。継続的に実施することで応募者の口コミで広がっていくようになれば効果的と考える。

・シティーセールスとして、100周年のタイミングというニュース性のある話題を情報発信しようとしている。事業者の立場としては、後に結果を残すものとして欲しい。例えば、明石の100年間で、最も変わったもの、変わらなかったものを洗い直し、情緒的なものを大切に発信することで、単なる一過性の祭りではなく、事業者としてこれからの可能性を模索できる周年行事として欲しい。

⇒(中西委員) 市民に明石をもっとよく知ってもらう機会として、今後においても100周年事業のあり方について、意見・提言があればご意見を聞かせていただきたい。

〈町衆明石〉

・9月議会において請願した「市民まつり」の再開を目指し、その賑わいにより、市民に明石に住んでいることを喜んでもらいたい。

・今後に向けて、昨年11月に開催したB-1グランプリの検証を行う必要があると考える。

・B-1の際に魚の棚の青空楽市を開放して対応したが、お客様からチケットがないとか、食べることが出来なかった、料理提供のスピード等の話があり、顧客満足度が低かったのではないかと危惧をしている。イベントを通じて移住・定住を目指す上でもしっかりとした検証は必要。

(北川委員) どうすれば満足度を高めることができると考えるか。

⇒多くの来場者があったこと、駅前を歩行者天国にしたなどの対応はよかったと思う。料理提供のスピード等、運営側との協議、改善の余地もあるかと思う。

○テーマ2：今後の若年層定住促進について

〈明石商工会議所青年部〉

・パピオスの子ども施設は充実しており、このような施設を市東西に作り、子育て世代からの意見を聞ける環境づくりをするとよいのではないかと。ママ友などの関係は、子どもの成長によりいずれ離れていくことが多いが、そうならないよう10年、20年の世代間の情報が共有できる仕組みをつくれたらよい。また、子どもにとっても多くの情報の中からしっかりと判断し、自分の考えが持てる力がつくような教育ができる環境も必要と考える。

・キッズニア(子どもの職業体験)やベビー競争には、おじいちゃん、おばあちゃんが同伴しての波及効果もあり、経験、思い出から定住にも繋がると思う。

〈明石商店街連合会青年部〉

・転入者のことを考えると、子育て支援は、医療、保育等の充実に加えて、空き家対策としてのリフォームや引越し費用等への補助が有効と考える。中核市に移行しても補助金等は確保して欲しい。

〈一般社団法人 明石青年会議所〉

・祭りは、古くから住む地元の男性が主体に実施していることが多く、参加者が減少傾向にある。女性の参加が増えると盛り上がると思う。自治会等に対して、女性の参加を促して欲しい。

・他市から来たため、明石で地蔵盆を始めて知った。お年寄りとの触れ合いは、子どもの情操教育に良い。このような地域コミュニティを高める機会を増やして欲しい。

・どこに住むかは、どのようなコミュニティに属して生活するかが重要であり、若年層である高校生や就職する者にとって、合理的なものばかりが判断材料になるのではなく、明石への郷土愛等の感情的なものも大切であり Uターン等も期待できるため、郷土愛につながる良い思い出ができる取り組みも必要。

〈町衆明石〉

・子ども会活動等が減る傾向にあるが、震災・火事等での自助・共助を考えると、隣同士の顔が見える環境は必要と考える。明石には、地域コミュニティの土壌があり、この事が若年世代に受け入れられるかどうかはそれぞれの判断に委ねることになるが、アピールしていくべき。

明石市市議会議長 三好 宏 様

平成 30年 1月 26日

上記のとおり報告します。

総務常任委員長 林 健太